

放課後児童クラブ運営委員会と意見交換会を実施

協議内容 放課後児童クラブの現状と課題について

①各クラブの現状と課題について

- 定員はそれぞれの規模で異なる。生徒数の減少でゆとりが出ているクラブもある。
- 発達凸凹の生徒がいた場合、通常の支援員の数では足りない。スタディメイトのようなサポートがあればいい。
- 日常生活において他の生徒以上に目をかける必要がある情報が、こども園などからまったく伝わらない。少しでも情報があつたほうがいい。
- 放課後児童クラブは低学年が多いので、高学年の子は自主的に来なくなる教室もあるが、やめないで長く通うクラブもある。
- 希望者を全員受け入れられない理由として、そもそもクラブの入会規定に沿っていない場合が多い。

②支援員の研修状況について

- 放課後児童クラブの支援員になるためには、所定の資格を持たない場合は実務経験が必要となり、所定の時間をクリアして初めて研修を受けることができる。
この時間数を満たすためには、3年以上かかるため、高齢の補助員が支援員の研修を受けることが難しい。
- 補助員から正規の支援員へ転向を望まない人がいる。
- 支援員研修の資格はあっても、その資格を証明することが手間である。

③長期休業中のタブレットの取り扱いについて

- 普段からタブレットの持ち帰りをしている小学校とそうでない学校がある。
- 長期休業中はタブレット、ゲームの持ち込みはすべてのクラブが禁止であるが、平日30分のみタブレットを使用できるクラブもある。
- 支援員がITに対応できていないので困っている。

④小学校との連携について

- 月一回、学校側（校長、教頭、担任など）と話をするところもあれば、まったく話をする機会のないクラブもある。
- 校長が変わると体制が変わってしまい、これまで通りに運営ができないことがある。
- 話し合いの時間を、小学校の長休みの時間や掃除の時間に指定される。

⑤保護者との協力体制について

- すべてのクラブは運営委員に保護者が参画し、親子清掃などを年に数回設けている。
- 保護者とはLINE でつながっている。
- 常日頃から保護者の様子を観察し、極力、世間話などをするように心がけている。